

●三位一体後第二十三主日 泉のほとり

今月の詩篇「第二十一編」

王は主に依り頼む。

いと高き神の慈しみに支えられ

決して揺らぐことがない。



子どもに見ならう

キリストに触れていただくために、幼子までも連れてきた親たちを弟子たちは叱りました。弟子たちは今までキリストについて来ていながらも、キリストは子供なんかを相手にする方ではない、と思っていたようです。

主イエスは彼らに憤って言われました(マルコ10:14)。「子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない」と、そしてその幼子たちを呼び寄せて「神の国はこのような者たちのものである。はっきり言っておく。子供のうちに神の国を受け入れる人でなければ、決して神の国に入ることはできない」と教えられました。

子供たちを「邪魔」と思っていた弟子たちに「邪魔するな」と言われました。更に「子供なんか」と思っていた彼らに、あなたたちも「子供のようにならないければ」と言われたのです。

イエスさまは福音書の他のところでは当時の「律法学者やファリサイ派の人たち」のように決まっていた神の国に入ることはできない」とも教えられました。聖書の深い意味まで探り、多くの知識を持っていた彼らとは真逆とも思える幼子たちを指して、この幼子たちのようにならないければ決して神の国に入ることはできないと語られたのです。

この地上に來られたキリストは大人たちに触れることに日々疲れておられたと想像します。聖書の内容には詳しく、言葉数多く信仰を表す大人、しかし実質は全く理屈だけの彼らの信仰を日々目にしておられました。イスラエルを深く憐れむキリストを見る者はなく、「しるしを見せてくれ」と言う者たち

もいれば、律法学者、ファリサイ派などの人たちは、試すために近づきました。また自分たちの知識を誇るために議論を仕掛けたり、言葉尻を捉えて困らせようとしたりしていました。キリストはそのような彼らに対しても大からの知恵をもつて、教え、答えられました。しかし彼らは素直に学ぶことを願うより、キリストを妬みました。その彼らの聲から、愛こそ最高の戒めだという教えがなされていたのです。

キリストのすぐそばにいた弟子たちでさえ、唯々主イエスを愛するという心ではなく、一緒にいればいつか偉くなれる、という裏の思いを抱いていました。その心でお互いに妬み合っていたのです。そういう彼らが「子供なんか」と思い、子供を「邪魔だ」と思っていたのです。キリストは憤って言われました。「わたしのところに來るのを邪魔するな」と。

毎日毎日、そのような大人たちを相手にしなければならぬ中で、キリストにとって幼子に触れることはその疲れを忘れさせるようなことだったと想像します。自分を飾ることも、隠すこともなく、自分をよい人と見せ掛けようともしない、そのような幼子には大人も無防備にさせる力があります。いつも愕然とさせられる大人と違って、キリストはそのような幼子たちとのうほうが居やすかったのだと思います。

私はキリストを疲れさせる大人が、キリストの目に幼子のような者か。

キリストが私を見て、この人とは居やすいと思える人になりたいものです。その者はキリストにだけではなく、隣人に対しても、安らぎと慰めを与える者に違いありません。

(ルカ一八・一五〜一七)

祈り

天の神さま、あなたは三千数百年の昔、イスラエルの民を奴隷の地エジプトからみちびき出し、四〇年間の荒野の旅を経て、目的の地カナンへたどりつかせられました。

出エジプトの旅は、食べるにも飲むにもあなたの助けを受けなければならぬ困難の多い旅でありましたが、あなたはたびたび奇蹟を起こして彼らに必要なものを与え、あなたが彼らの神でいますことを示してくださいました。こうして四〇年間の荒野の旅は、自分たちが神の民であることをイスラエルが学ぶ旅となりました。

わたしたちの教会の遡る八二年の旅路をも、今日まで、紅海の奇跡と同じ奇跡的なみ手をもって導いてくださいましたことを、感謝いたします。しかしながら、わたしたちの傲慢な心と不信仰のために、あなたが起こしてくださった奇跡を奇跡として認識することができず、あなたのみ手の働きを、感謝もせずに見逃ごしにしてきたことも、数多くあったことと思えます。どうぞわたしたちの傲慢と不信仰をお赦しください。わたしたちの心の目を開いてく

だきつて、あなたがわたしたちの教会の主でいますことを、見ることができるようになってください。そしてそれ故に、これから迎える教会の歩みも、希望を抱いて歩みゆくものとしてください。

あなたはイスラエルを、祭司の王国、聖なる国民として召されました。わたしたちもこの地上において、いつも人々のためにとりなしの祈りを祈りつつあなたの前に立ち続ける祭司の王国となりますように、また遣わされた場所においては地の塩、世の光としての務めを果たすことができますように、導いてください。

そのためにもこの群れの中で、いつもみ言葉が明らかに語られ、また従順な心をもってそれが聞かれますように。み霊がいつも働いて、わたしたちを力づけ、神の民としてふさわしい歩みを引きさせてくださいますように。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン

〔佐伯儉著の祈符集「天の父よ」所収の「教会記念日の祈り」をもとに〕

今日のお知らせ

○今日は第一・第二礼拝とも、教会記念日礼拝です。

○第一礼拝後、教会学校と並行してロビーでのコーヒーマービスと、園舎二階リズム室では、礼拝で受けた恵みを分かち合う「ぶどうの会」と一〇時四〇分から、幼稚園舎2階のなでしこのお部屋で紫岡香音楽伝道師の指導による賛美と祈りの会が開かれます。

○第二礼拝後、ホールで、讚美と報告の後、教会記念日を祝う会をします。第二回バザー当時の写真を見ながら、初代佐伯儉牧師の「入門講座」の声を録音で聞きます。

○その後、愛餐会をします。今日のメニューは、鶏ももの肉甘酢あえ・ブロッコリー添え、グリーンサラダ、さつまいもご飯、すまし汁、みかん、です。ご期待ください。

○午後二時から、定例役員会をカナルルームで行います。

○明日(二〇日)から二二日(水)代々木のオリンピック記念青少年センターで、「日本の伝道を切り拓く説教」という主題で説教塾のシンポジウムが行われます。品川教会からは吉村牧師、黄副牧師、菊池美穂子姉、宅間輝子姉が参加します。

○紫岡香音楽伝道師は二四日、金曜日は東京鶴の木教会で、二五日、土曜日は広島福音自由教会でコンサートの奉仕をします。お祈りください。

四国だより

いつの間にか庭にトンボの飛ぶ姿が見られる良い季節になりました。謹んで十月の牧会報告をお送り致します。

主のご再臨に備えての学びと実践では驚くような主のご啓示を折りまげながら御言葉に学んでおります。

新しい出会いでは十月の一日に大津バプテスタ教会に属するアガペーローズチャーチの藤井主子先生より「誠に勝手ながら恐縮の内に是非ともお願いしたい事がございますが」との事で一人一日研修会を希望されてました。

主のお導きと確信し十月十九日木曜にと了解いたしました。

大変感動してお帰りになられましたので主の聖名をよろこび賛えました。これまでに神学校で学んだ事、自分が体験した事とみことばの一致、どの本にも書かれていない、聞いたことも学んだこともない真理を主が天の窓を開いて下さり直接的に不思議な方法で教えてくださったことをお伝えできたと思えました。

「一人一日研修会」は毎年十月にお願いしますが、この事でびっくりしました、が感動しておられ主を賛えておられるお姿に主の御心と確信し

了解いたしました。米年の十月にはガラテヤ書を共に学びます。

「開拓十周年の記念誌」の旅は東京を出発し松山ー内子町ー西条ー松山ー北九州へと旅をして止まりました。松山の岡田兄より先日お便りで私の恩師と判明した金エシユルン牧師先生が二月一六日に松山礼拝所に来られる事になり特別なお招きをいただきました。

(つづく)

二月一四日 田端良恵記

23日のご案内

お知らせにありませんシンボジウムに引き続き、二三日(木・祝日)午前10時半から品川教会礼拝堂で、公開シンボジウムが、また午後二時からは伝道派遣礼拝が行われます。午後の礼拝では加藤常昭先生が説教されます。参加自由です。どうぞご参加ください。

聖書の会

11月22日(水)

○朝の聖書の会

○聖書の夕べ

お休みです。

今回は29日です。

ミニコンサート

12月14日(木) 13時開演

ハンドベル演奏

次週礼拝

●第1礼拝(午前9時30分)

讃美歌 小さいこどもの 461番

説教 「自分を救えない救い主」

聖書 ルカ23章32節〜43節

説教者 吉村和雄 牧師

●第2礼拝(午前11時10分)

讃美歌 6番 533番

詩編 第21編

説教 「思い煩いからの解放」

聖書 マタイ6章24節〜34節

説教者 黄允浞 副牧師



第一礼拝 (午前9時30分)

讃美歌 小さいこどもの

461番

説教 「キリストの教会が建つところ」

聖書 マタイ16章13節～20節 (新約P31)

司式者 山名隆史 兄

説教者・聖餐司式 吉村和雄 牧師

前奏曲「み恵み豊けき」D.ウヰ

○小さいこどものサムエルは

1 小さいこどものサムエルは

神さまの呼ぶ声、聞きました

「サムエルよ、サムエルよ」

2 小さい声で今日もまた、

神さまの呼ぶ声、聞こえます

ぼくの名前も、わたしのも

「しもべは、聞きます 主よ、お話をください」

○教会学校生徒による讃美

「どんなに小さいことりでも」

○サクソフォンによる讃美

「丘の上の教会へ」讃美歌Ⅱ189番

○讃美歌461番

1. 主われを愛す 主は強ければ
われ弱くとも 恐れはあらず

※わが主イエス わが主イエス
わが主イエス われをあいす

2. わが罪のため さかえをすてて
天よりくだり 十字架につけり
(※おりかえし)

3. みくにの門を ひらきてわれを
招きたまえり いさみてのぼらん
(※おりかえし)

4. わが君イエスよ われをきよめて
よきはたらきを なさしめたまえ
(※おりかえし) アーメン

聖餐曲「アダージョ」F.メンデルズバーン

後奏曲「フィナーレ」C.M.グイット

※礼拝には、聖書、讃美歌、礼拝のしおりを毎週お持ちください。

第二礼拝 (午前11時10分)

讃美歌 196番 228番

詩篇 第21編 (旧約P851)

説教 「キリストの教会が建つところ」

聖書 マタイ16章13節～20節 (新約P31)

司式者 山名隆史 兄

説教者・聖餐司式 吉村和雄 牧師

前奏曲「神よ我ら汝に感謝す」J.S.バッハ

○讃美歌 196番

○サクソフォンによる讃美

「丘の上の教会へ」讃美歌Ⅱ189番

○聖歌隊による讃美

「主に感謝せよ」 G.P.ヘンデル

感謝せよ わが主に

主は海を分かちて 御民を導く

主は我がひつじかい 御手もて

つねに優しく 導きたもう

感謝せよ わが主に

主は海を分かちて 安らに導く

導きたまえ とこしえに

○讃美歌 228番

聖餐曲「我が主のみ旨は」J.S.バッハ

後奏曲「フィナーレ」C.M.グイット